

60 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力 (31)

—東金御成街道の歴史(1)—

29 期 仲田 元昭

「10月16日開催の同窓生街歩き(ガイド仲田)でのご縁」のご案内です。ご参加頂いた24期富川先輩との交流で、ご実家が東金御成街道(船橋市本町通り商店街)の真中で創業130年(明治30年)「茶 富川園」とのことが小生初めて分かりました。そこで船橋駅より徒歩10分の旧市街中心地を1km程直線で通る東金御成街道の歴史を2回にわたりご案内します。

1、交通の要衝 船橋

船橋は、15世紀後半から海運と房総の街道が集まる交通の要衝として栄えてきました。

江戸時代には、江戸と房総を結ぶ5街道が整備され①佐倉、成田、鹿島方面に向かう成田道、②船橋から東金に至る東金道(御成道)、③千葉、木更津への千葉道(房総往還)、④海神からは行徳道、⑤利根川河岸の佐原・銚子に向かう木下道も船橋からで、房総最大の街道集中地でした。九日市、五日市がたち、船橋の湊から五代力船で小名木川を通り、江戸に2時間程で物資が運ばれていました。

2、東金御成街道の歴史

東金御成街道は、今から410年程前1614年に徳川家康が佐倉藩主土井利勝に命じ、造営されました。

江戸時代初期には徳川將軍家の東金方面への鷹狩の際、船橋に家康公が2回、秀忠公が10回、家光公が1回宿泊・休憩されています。

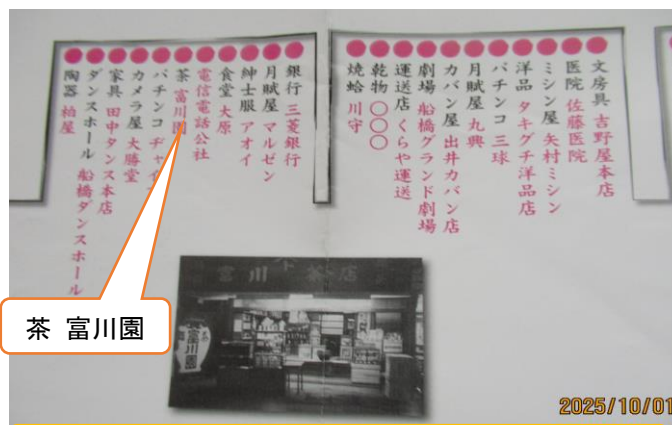
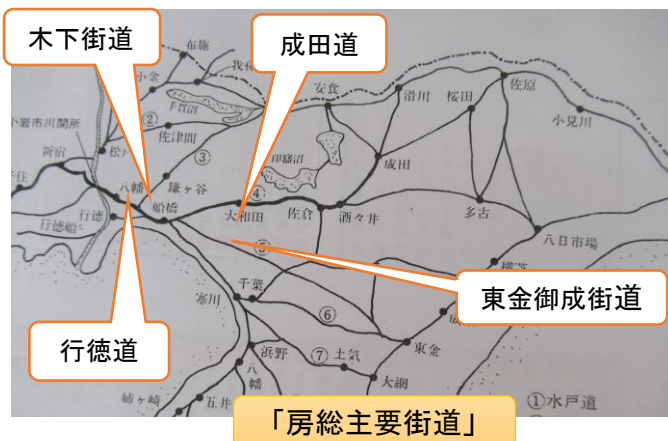
江戸中期には庶民の間で成田詣でが流行し、旅籠29軒、本陣1軒、商家が70軒程あり、宿場として行く者は、船橋宿に入り江戸に着いたと勘違いしたと言われるほど賑わっていました。

明治6年4月29日明治天皇が千葉県で最初の行幸が船橋で、富川先輩のご実家「茶 富川園」のすぐ先の櫻屋で休憩、船橋には10回宿泊され千葉県で一番多く立ち寄られた場所が「茶

富川園」のすぐ先で、千葉県指定文化財史跡・明治天皇行在所の石碑があります。

東金御成街道は、江戸、明治、大正、昭和・平成そして現在と栄え続けている街道で、現在は本町通り商店街、図書館・マンション、会社事務所と複合の新しい街として発展、数年前には若者が首都近郊で一番住みたい場所一番に選ばれ発展している街が船橋です。

(参考図書:房総の道成田街道他)「61 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(32)」に続く「寄稿:2025-11-3」



「昭和34年船橋本町通り商店街160軒の真中」



「昭和34年頃の創業130年の茶 富川園」